

教育総合センター だより

NO. 178

令和 7. 12. 1



繋がり つながり C o n n e c t i o n

尼崎市立小園中学校

校長 真島 清行

今年は「大阪万博」が開催され、多くの人々に夢や希望、思い出を与えてくれました。そのメインテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」で、サブテーマは三つありその一つが「いのちを繋ぐ (Connecting Lives)」でした。私は校長となってから、入学式の式辞では必ず命の大切さを伝えてきました。新入生やその保護者に向けて「今ある命は自分一人だけのものではない」「今あるその命はこれまでの人たちが大切に大切に繋いできてくれたもの」と伝えています。そして、「その命をこれからも大切に繋いでいって欲しい」と「今ある君たちの存在は地球の誕生から様々な困難も切り抜け延々と繋がられてきた「奇跡」にちかいこと」だと。

そして、今年は、本校の50周年に当たる年です。そのテーマは「これまでの小園中と未来の小園中を繋ぐ生徒たち～50周年メモリアルイヤー～」です。今年は、入学式よりドローンでの記録なども活用し、約1年間の生徒たちの日常の様々な学校生活をメモリアル映像として未来の小園中へ繋ぐ取組を行っています。さらに、校訓碑づくりにも取り組んでおり、今の生徒たちがこれまでの思いや未来の小園中への希望をたくして言葉を選び「至誠通天」に決まりました。意味は、強い思いを持って取り組み続ければその思いや目的は達成することができるという意味です。

先日、中学校校長会OB会がありました。その挨拶に先立ち、参加されている方々のお顔を拝見した瞬間、熟考したシナリオよりも先に、私の教職37年間に様々な場面でお世話になったことが

思い起こされ、第一声が「私がここに立っているのも皆様のおかげだと、心からお礼申し上げます」でした。私の教職人生も様々な人と出会い支えられてきたという繋がりがありました。

人にとっての「繋がり」はとても大切なものだと思います。人は生を受けた瞬間から様々な「繋がり」を創り・持ちながら生きていきます。人は生きていくためには「繋がり」が必要であり、それを求めていくのでしょうか。一方、「繋がる」ためには多くの課題や障壁があります。民族・国家・宗教・利益 etc・・・でも、人はそのような課題や障壁を解決・乗り越えてでも「繋がり」を求め、必要とします。また、人の成長には内面的な部分があり、これまでの自分と今の自分、未来の自分を繋ぎながら成長していきます。自分自身を見つめながらつなぎ合わせながらアイデンティティを形成していきます。教育とは「温故知新」と言われますが、新たな教育制度や取組、社会のイノベーションなどの展開も必要不可欠なものです。でも、はっきりとした形がない「繋がり」はこれまでも大切にされてきて、学校教育の中で重要な育むべき部分だと思います。個に働きかけたり集団に働きかけたり、先生は子どもを前に日々考えながらその育成に努力されています。これからの様々な「知新」は求められ、変化していくと思いますが、「温故」である愛情や情熱、努力、我慢強さ、「繋がり」などを大切にしながら、これからの尼崎の子どもたちの健やかな成長のために、教師という仕事を楽しみながら頑張っていって欲しいと思います。

☆☆GIGA スクール構想 第2期にあたって☆☆

1 はじめに

文部科学省の推進する「GIGA スクール構想」を実現するため、尼崎市では令和2年度より1人1台の学習者用端末（Chromebook）を導入しておりますが、この度、「GIGA スクール構想 第2期」として、学習者用端末が新しいものに更新されました。新端末への入替作業にご協力いただいた教職員のみなさまに心より感謝申し上げます。

2 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実

端末は、Acer 社製から Lenovo 社製に変わりました。基本的な操作方法などは大きく変わりませんし、引き続き、Google Workspace やロイロノートスクールを導入しているので、これまでの端末と変わることなく活用していただくことができます。

Google の汎用的なソフトウェア（Google スプレッドシートやスライドなど）を活用した共同編集や他者参照は、これからの教育において、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びによる授業改善に向けての重要な役割を担います。

共同編集は、子どもたちが一つのファイルを同時に編集し、リアルタイムでお互いのアイデアを共有することを可能にします。例えば、Google ドキュメントやスライド、FigJam、ロイロノートの共有ノートといったツールを使えば、国語の物語作りや社会の新聞作りなど、様々な教科でグループ学習が活性化します。これにより、他者の考えを尊重し、協調性を育むことができます。

さらに、他者参照は、友だちの成果物やアイデアを参考にすることで、自分の考えを深めるきっかけを与えてくれます。例えば、理科の実験結果を全員で共有し、それぞれの考察を比較することで、多角的な視点から物事を捉える力を養うことができます。また、自分の考えをもつことが苦手な子は、友だちの考える過程を参照することが、自分自身で考えるための足場かけとなります。このように、

端末は単なる「調べる道具」や「書く道具」ではなく、「学びを深めるための対話の場」へと進化させることができます。

3 探究的な学習

GIGA スクール構想第2期にあたって、さらに次のステップとして、教科の学びを深めて教科の学びの本質に迫ったり、教科の学びをつないで社会問題等の解決や一人一人の夢の実現に活かしたりする学びへと歩みを進めていくことが期待されます。

学び支援課では、「探究的な学習研究部会」を実施し、端末を活用しながら子どもたちの学びを深めていく学習方法を研究しています。令和6年度の部会では、自分の学校でできる異常気象への対策を、エネルギーとエコの観点から考察し、班ごとにスライドを用いて発表する取組などが行われました。

探究的な学習は、主に総合的な学習（探究）の時間において実施されることが想定されていますが、教科学習の中でも探究的な学びを取り入れることで、学びの幅を広げることができます。「探究」は学習指導要領で重視されているポイントでもあり、どの教科、どの先生でも「探究」の視点を持った授業づくりが不可欠になります。

4 おわりに

GIGA スクール構想がスタートして5年が経過し、端末を活用した授業は浸透してきているように感じています。しかし、私たちは、全ての授業を端末を使ったものに置き替えるべきだとは考えていません。これまで、先生方が積み上げてきた経験や知識をもとに、デジタルとアナログ双方の良いところを使い分けながら、いかに子どもたちが主体的・対話的に学びを深めるかが重要となります。このような学びが実現していくように、学び支援課としても先生方のお力になれるように努めていきたいと考えています。

（学び支援課 係長 吉田 満）

（学び支援課 指導主事 中村 大輔）

☆☆差し伸べることからはじまる人権教育☆☆

みなさん、「人権教育」と聞いて、どのようなことを思い浮かべますか？「人権教育」と聞くと、「差別」という言葉を連想し、「難しそう」といった印象を持つ人が多いかもしれません。私も以前は、「人権教育」に対して、どこか「堅苦しい」イメージを持っていました。

しかし、人権教育担当となり「人権教育」について深く考えることで、今では「優しさ」や「おもいやり」に繋がる学習だと感じるようになりました。

そもそも、人権とは、「すべての人が生まれながらにもっている、人間が人間らしく生きていくために誰からも侵されることのない普遍的な権利」のことです。

そして、この人権を大切にできる人になるために、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認められる」態度を身につけ、行動や言葉に表せるようになることを人権教育では目指しています。

一方、私たちの身近には、「女性」「子ども」「障がい者」「部落差別」「外国人」「インターネット」「拉致」「性的指向および性自認」といった様々な人権課題があり、実際に悩んだり、困ったりしている人たちがいます。もちろん、これらの課題は解消への取組を進めるべき問題です。では、実際に関係している人たちだけで解消できる問題と言えるでしょうか。

決してそうではありません。今ある人権課題を解消し、新たな人権課題を生み出さないためには、学校や地域、世界にある人権課題を自分や身近な人の問題として捉え、すべての人が「自分と他人の大切さ」を意識できるようにならないといけないからです。

尼崎市教育委員会では、令和7年（2025）年度に、人権教育専門の担当を配置する「こころとからだ育成課」が新設されました。ここでは、これまでの人権教育に関する事業を引き継ぐとともに、今年度は特に「多文化共生教育」に関する取組を強化しています。その背景には、近年、外国から来日し、日本の学校に通う外国人の子どもたちが増えている現状があります。

もしも、みなさんが外国で生活することになったとしたら、どんな気持ちになりますか？もちろん言葉は通じませんし、これまで当たり前だったこともそうではなくなります。そして、日本人である自分のことを周りの人たちはどう思っているのか…、きっと不安と悩みで胸が一杯になるでしょう。

「多文化共生教育」の目標は、外国にルーツをもつ子どもたちと日本の子どもたちが、互いの違いを認め合い、個々の人権を尊重し合える共生の心を育むことです。

この目標を実現するためには、外国から来た子どもたちへの日本語支援や生活支援が必要となりますが、その大前提として、私たち日本人が「相手に共感し、手を差し伸べてあげたい」という感性をもつことが大切です。

そして、私は、この感性こそが、様々な人権課題を解消する、また生み出さないための糸口になると考えています。

日本では毎年12月4日から10日までを「人権週間」と定めています。ぜひこの機会に、みなさんの「優しさ」や「おもいやり」を誰かに差し伸べることで、相手を大切に思う気持ちを表現してみてください。

（こころとからだ育成課 人権教育担当係長 山本 綾）

教育情報コーナーのお知らせ

☆教育情報コーナーのご案内

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。
また、必要な図書、資料等のご相談にも応じております。お気軽にお尋ね下さい。

(3F 教育情報コーナー)

【新着図書】

- ・『「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と架け橋プログラム』
神長美津子 著／小学館
- ・『これからの授業研究法入門 ～23のキーワードから考える』
秋田喜代美 他著／東京図書
- ・『人生の大問題と正しく向き合うための認知心理学』
今井むつみ 著／日経BP日本経済新聞出版
- ・『学校をアップデートする思考法 ～学び続けるチームになる』
妹尾昌俊 著／学事出版
- ・『世界の教育はどこへ向かうか 能力・探究・ウェルビーイング』
白井 俊 著／中央公論新社
- ・『「頑張れない」子をどう導くか ～社会につながる学びのための見通し、目的、使命感』
宮口幸治・田中繁富 著／筑摩書房
- ・『子どもが動くのは、ルールより関係だった』
赤坂真二・一尾茂正 編著／明治図書
(担当 松浦)

☆「ひと咲きタワー」は、学びのタワー！

【本の紹介】

■『人生の大問題と正しく向き合うための認知心理学』 日経BP 日本経済新聞出版 2025年5月初版発行
著者 今井むつみ 慶應義塾大学名誉教授 今井むつみ教育研究所代表 専門は認知科学、言語心理学
発達心理学

主な著書：『「何回説明しても伝わらない」はなぜ起こるのか』（日経BP）『学力喪失』（岩波新書）
など多数

認知心理学者の今井むつみ名誉教授が、慶応大学SFCを定年退職するにあたって行った「認知心理学」の最後の講義をベースに、解説を補足して書籍化した本である。

私たちのものの見方にはつねにある種の「偏り」があるということ。そして、その「偏り方」は人によって違うということ、さらに自分自身に「偏り」があるということに気づけない場合も多いということ。それらを知ることが、仕事において、あるいは日常生活において、他者を尊重しながらよりよく生きていくことにつながるなどが、様々な研究成果をもとに書かれておりわかりやすい内容である。

※教育総合センターには、すてきな本がたくさんあります。

(担当 西川)